

ねいとう 麻雀部

24年度新年号



練馬稲門会麻雀部「会報08号」 平成24年1月1日発行・編集委員会

謹賀新年! 昨年度の例会優勝者の皆さんに、“麻雀自慢”をしてもらいました。麻雀部長 富岡 晃

昨年度優勝者・新年に”麻雀”を語る!

★ 第67回大会 優勝
徳田 浩平 (S42 商)



★ 第68回大会 優勝
栗原 英明 (S40 商)



★ 第69回大会 優勝
武田 幸雄 (S44 政経)



★ 第70回大会 優勝
中村 久和 (S34 法)



★ 第71回大会 優勝
近野 和文 (S48 政経)



★ 第72回大会 優勝
富岡 晃 (S41 教)



東日本大震災義援金
9.5万円、ご協力有難うございました!

★ 第 6 7 回 大 会 優 勝

【 第67回：平成23年01月29日開催 】

麻雀部員 徳田 浩平

(S42 商)

「S38年、男児志をたてて…」

明けましておめでとうございます。今年が、特に被災された人々に良い年になりますように。

S38年、男児志をたてて…都の西北に青山を求む。前期は角帽、学ランにて勉学に勤しむが、9月

親切な級友(迷惑な悪友?)に千点十円にて麻雀という禁断のゲームを伝授される。

それからは冒頭の志を失念、第二学食横の雀荘(ジャスミン)が我が教室となり、50円のいこいと120円のかつカレーを両脇に徹夜もいとわず猛勉強の日々となる。



努力は報われ、心・技・体の充実の基、天分を發揮し相当の腕前となるが、かのゲームの面白さ、奥深さは皆様ご存知の如く技量もさることながら神意なるツキが勝敗を左右する事が多々あるからではないだろうか。5面チャンがあがれず、一牌しかない牌が一発でツモれる妙はその真髓だろう。

この136牌の魔力に魅せられ尽くした私ですが、よくぞ卒業出来たものと、冷や汗一斗の懐かしくもほろ苦い学生時代でした。

S42年入社時の土曜日就業は五時までだが、まもなく三時、半ドンと麻雀愛好家のメンツ集めに最適の時代が到来、このゲームの最盛期となる。経理から営業に変わり、慶応出の支店長に麻雀の縁で可愛がられ、お宅での正月二日の年始が徹夜麻雀の恒例が随分長く続いた。

今では、雀だこも消え、盲牌も怪しくなったが、隔月の練馬麻雀大会が唯一の腕試しの場であり熱海も含め企画、推進されている富岡部長に感謝しつつ、諸先輩のご健康とこのお付き合いが続くことを楽しみにしている次第です。

★ 第 6 8 回 大 会 優 勝

【 第68回：平成23年03月26日開催 】

麻雀部員 栗原 英明

(S40 商)

「S40年卒業で社会人となるまで…」

私は昭和40年卒業で社会人となるまで麻雀とは全く無縁でした。

学生時代の4年間は、貧乏がゆえにアルバイトの生活と、趣味の旅行に明け暮れて、あっという間に終わってしまいました。

従いまして、社会人1年生時に先輩連に無理やり誘われて麻雀というものを覚えました。先輩連に良いカモとばかりに連



日引き込まれて給料(月約3万円)の半分近く負けてばかりで、生活にも支障をきたすことになっておりました。

しかし、今思えば、その時の悔しさが反骨精神に火を付け、何時か必ず取り返してやると思うようになり、転勤と共に上達していったものでした。

それから10年も経過してからあまり負けなくなると同時に、麻雀のおもしろさと楽しさが増してきて、自分なりに研究するようになり、2つの課題に挑戦するこの頃です。

その1つ目は、何故“付き”があるのか。その“付き”を自分に持ってくるにはどうしたらよいのか。

その2つ目は確率論です。“牌”は限られた枚数4枚しかないのに何故25%以上の確率であたるのか。第68回大会で優勝させて頂きましたが、その時は本当に“付き”まくっておりました。

又、そういうときが来ますように祈っております。



★ 第 69 回 大会 優勝

【 第69回：平成23年05月28日開催 】

麻雀部員 武田 幸雄

(S44 政経)

「私の麻雀放浪記」

おそらく麻雀部の皆さんもそうだと思いますが、麻雀を覚えたのは麻雀環境だけは日本一の大学に入ってからでした。大人っぽい同級生(2浪、3浪?)から手ほどきを受けてのめり込みました。理解ある両親を持った友人が「俺のところでやろう」と友人宅で打った徹マンは延べ幾夜となったことか。

就職して、会社の先輩から麻雀を誘われ、多少の自信を持って臨んだところ、学生麻雀との違いをいやというほど思い知らされました。また、半ドンだった土曜日の仕事の始まりは、午後からの麻雀のためまずはメンツを固めることでした。会社生活での麻雀直接収支は恐らくマイナスだったと思いますが、麻雀のお陰で交流範囲は広がり仕事の面を勘案した総合収支にすればトントンだったと勝手に自己満足しています。

会社での後半は麻雀とは縁遠い状態が続きましたが、退社後復活の時が来ました。練馬稲門会との出会いです。忘れもしませんが、初めて参加した月例大会で優勝!したのです。「自分はやはり麻雀の実力はあったのだ」と錯覚してしまい、個別の麻雀会にお声をかけていただくままに、練稲での麻雀放浪が始まりました。負けが続く年金ベースの交際費も底を着きそうな羽目に陥り(？)、俺は麻雀には向いていないと、いささか腰が引きかけていたところ、今回2度目の優勝をいただきました。このツキが次に来るのは何時のことか。それを楽しみに待ちながら、これからも大会参加を続けようと思っています。

お世話いただく幹事の皆さん、感謝申し上げます。



★ 第 70 回 大会 優勝

【 第70回：平成23年07月30日開催 】

麻雀部員 中村 久和

(S34 法)

「新宿時代以来の優勝…」

新宿時代以来久し振りに優勝できました。難産でした。最近歳を重ねるに従って、麻雀に不可欠な体力・気力が減退し、継続して勝つことの難しさを痛感しています。

そもそも麻雀は惚け防止に有効ですし、麻雀を通じて精神的交流の絆が育まれ、友情の輪が広がっていきます。所詮麻雀されど麻雀です。

麻雀はとても楽しい競技です。やっぱり麻雀は止められません。

私は稲門会の士と卓を囲んで麻雀ができればそれで楽しく、元々余り勝負には執着せずこだわって来ませんでした。しかし、麻雀は優勝すれば嬉しいし負ければどっと疲れます。疲れないためにも麻雀は勝つべしと思えるようになりました。どうすれば勝てるのか。ツキ(運)の比重の大きい麻雀では、実力があっても勝てるとは限らず、明確な勝利方程式を見出すことは困難です。

まず避けたいことは大きい振り込みでしょうか。

これからもできるだけ多く優勝できますよう、休まず参加を続けてまいりますのでよろしくお願いいたします。

以上



【編集委・注】

「新宿時代」とありますのは、当部創立の頃、新宿の雀荘「ロビー」で例会が開催されていたことに準拠。→「練馬稲門会麻雀部10年史」(練稲ホームページ)をご参照。

★ 第 7 1 回 大 会 優 勝

【 第71回：平成23年09月24日開催 】

麻雀部員 近野 和文

(S48 政経)

完先の赤ドラ6枚。練馬稲門会麻雀部のルールが送られてきた。それを見て、「これは満貫やハネ満が煩雑に出るゾ。安い手であがっても仕方がない。遅くても高い手であがろう。」と、考えていた。

ところが、いざ打ち始めて、こんなハズじゃなかったと愕然とした。皆さん、聴牌が早くてツモられる、満貫手だと勝負をすと振り込んでしまうという、最悪のパターンの繰り返し。F卓G卓が指定席となり、このままビリ街道を走り続けるのかと…。



完全に自信を失いかけた私自身6回目の大会。それまでの麻雀が嘘のように配牌がよく、リーチをかければカンチャンをツモる、裏ドラがのる。トップ狙いで安い手であがると、さらに手がよくなるという好循環で、そのまま逃げ切り。

やっぱり、麻雀はツキかと思う反面、漫画家の福地泡介さんの言葉を思い出した。「麻雀は人より先にあがれば勝てる」と。安い手でも、早くあがることをモットーにしていた福地さんに、九連宝燈を振り込んで雑誌に書かれたのが、実は私である。



★ 第 7 2 回 大 会 優 勝

【 第72回：平成23年11月26日開催 】

麻雀部長 富岡 晃

(S41 教)

小生は、「勝負事」が好きである。麻雀、囲碁、株それぞれに面白い。昨年は大きな山有り、深い谷有りの1年だった。

まず、2月に「囲碁」に山がきた。日本棋院の認定試験で、「4段」をいただいた。これは目標遙かな大山だった。6月には早稲田囲碁祭で団体クラス優勝という小さな山にも出会った。



次は「株」でドカンと谷がきた。「3・11の大暴落」。小生は金曜日を休日に行っているため、木曜日に商いをすることが多い。3月10日も売り注文を出した。指し値がちよいと高かったのか、数の多い銘柄が出来なかった。いつもの週末の筈が、グラッ、グラッと来た…。翌週月曜日の朝、大きな損をした。

「麻雀」は、8月の「練馬早慶戦(団)の大勝」、そして11月の「第72回大会の逆転優勝」(通算7回目)へと繋がった。3回戦を終わった時点で、トップ 松本氏は+104、小生は+15で10位。最終4回戦も南場の3局迄あがりなしで、終了。何故か、ラス親の小生を、「トルネードなツキ」が襲った。第1局が「親の倍満」、2局目が、「親の役満(四暗刻)をあがり、4回戦は何と「+88」。半チャンの生涯最高記録をあげた最終結果は、「+103」と松本氏を逆転した。…

近隣大会団体の2連勝もあり、話題が尽きない！皆さん、本年もよろしくお願ひ申し上げます。

★ 本 年 の 行 事 (予 定)

①「平成24年01月28日(土)」	第73回大会	⑦「平成24年07月28日(土)」	第76回大会
②「平成24年02月12日(日)」	第3回近隣大会	⑧「平成24年08月●日(日)」	第4回近隣大会
③「平成24年02月26日(日)」	第3回早慶大会	⑨「平成24年08月●日(日)」	第4回早慶大会
④「平成24年03月31日(土)」	第74回大会	⑩「平成24年09月29日(土)」	第77回大会
⑤「平成24年04月21日(土)」	第4回熱海大会	⑪「平成24年11月24日(土)」	第78回大会
⑥「平成24年05月26日(土)」	第75回大会		

(注)「●」は、未定を示す。